

第2回 豊明市文化財保護委員会（臨時会）会議録

日 時：平成30年7月17日（火）午前9時30分から

場 所：豊明市役所本館3階 会議室2

出席者：浅井委員、三浦委員、成田委員、相場委員、佐野委員、鈴木委員、近藤委員、岡村委員、永井委員

事務局：伏屋教育長、小串教育部長、高木生涯学習課長、深草生涯学習課長補佐、青木係長、岸田主査、神谷社会教育指導員

傍聴人：なし

1 あいさつ 教育長

2 報告事項

(1) 戦人塚整備計画の変更事項について

- ・事務局より説明。当初の計画では標柱が石碑より大きく石碑を目立たせなくしているため撤去処分を行い、史跡の出入り口付近に新たに設置する計画であったが、現状変更許可申請の際に文化庁（整備部門）から昭和16年に注意書説明板と一対で国庫補助によって建てられた経緯があるため残しておくべき旨の回答があった。これにより標柱の位置は現状のまま、説明看板を右側に設置することとする。
- ・標柱の位置関係についてはこれまで文化財保護審議会で協議を重ねてきた内容であるため、変更に至った経緯の記録は残しておくことよい。

3 協議事項

(1) 唐竹小学校・双峰小学校統廃合における今後のスケジュールについて

○事務局より趣旨説明

- ・設計の段階から話し合う場をつくり、豊明市にしかなく市民が利用できる場としてサービスを提供できるようにするとよい。また、学習しやすい目線で考えていく必要がある。
- ・唐竹小学校1階部分の歴史民俗資料室と同じレイアウトになるのか案を示した中で考えていくことよい。
- ・今現在、レイアウトは白紙の状態であり、早く提案した方が決まっていく可能性がある。・・・事務局
- ・唐竹小学校に歴史民俗資料室を造った過去の経緯について検証を行う必要がある。利用者のために大通りに玄関を設置し駐車場を整備して入り易くするとともに、障害者用の出入り口を設置するとよい。車椅子でも動けるなど利用者に配慮していかなくてはならない。
現在の歴史民俗資料室の二の前になる可能性があるので、それぞれの利用者のための有効利用を考えて、お金をかけた施設を造る必要がある。
また、案で示した一番上の階（4階）に施設を設置すると資料などの荷物を出し入れするのが大変で使いにくくなると考えられる。
- ・市町村において若い住民の多いところは福祉と文化の行政がしっかりしている。過去において民俗博物館を造る計画から始まって最終的に唐竹小学校におさまった訳であるが福祉行政と文化行政に力を入れてほしい。
唐竹小学校の利用スペースが一棟分確保できなくても収蔵庫的な施設は必要である。ボランティアが意欲的になるために縮小することがあってはいけない。
10月の住民説明会で意見徴集しアピールできる施設にしていってほしい。

施設活用計画についてもボランティアもしくは第3セクターに入ってもらい必要がある。行政主導ではだめである。

- ・市民の意見を無視することはできない。基本方針の策定前なので今後、分散機能型で意見を上に上げていく。・・・事務局
- ・統合されるのであれば約800億円必要である。市内の施設を3割減らすと全体的な計画で集約型の施設となる。難しいが分散機能型の意見を上に上げていく。・・・事務局
- ・編さん室と資料室の機能が一緒になり、「編さん室」ではなく「資料室」などといった名前で活動していくとよい。その際、空調設備を完備してほしい。豊明の資料館として何を基準に資料を集めていくべきか資料館の活用方針を決めていく必要がある。古い農具の使い方を知っている人は少ないため、今後昭和30年代、昭和40年代を対象としたものを収蔵した方が活用範囲があるのではないかと考えられる。防災倉庫のもの（特に電動農具）は必要ないのではないかと考えられる。

現在、収蔵庫として坂部倉庫には将来的に処分してもよいものを集めており、双峰小学校に収蔵されている出土土器については今後、栄小学校にある3部屋の倉庫に置くとごみ化していく可能性がある。倉庫を塗り直して棚を作り、風通しを良くするなど手を加えていく必要がある。
- ・歴史民俗資料研究会は文化財保護委員が指導的な立場をどっている。高齢化してきており、資料の移動も大変なため年間の委託料で継続していくのは困難な状況である。このため資料の整理をする専門の人を常駐していく必要がある。
- ・なお、収容スペースの関係で資料を少なくする際は、豊明にしかないもの、程度の良いものを残しておく必要がある。
- ・旧愛知郡の様子を見ると拠点がしっかりしており、管理する人もいる。若い人を育成する施設をつくっている。上層部に伝えてもらいたい。
- ・図書館と隣接する豊明中学校に移設した方が市民の利用にとってはよいのではないかと思われる。
- ・公共施設の再配置計画では小中一環教育や図書館の移動も考えられる。与えられた諸条件の中で考えていく必要がある。・・・事務局
- ・4階では人が来る人が少なくなるが、将来的に、民俗資料室をつくる予定はあるのか。例えば1階は民俗資料室として残しておいて福祉に関係した回想法として使ってもらうために福祉の人たちと一緒に構想を造りあげていくとよい。現在、公開時には老人ホームの人たちも見ることがあり、4階に民俗資料を運搬するのも大変な状況である。
- ・1階に資料室を設置すれば保育行政、老人福祉からも見学にみえるかもしれないため見学者は増える可能性がある。
- ・予算をどこに重点的に使うか考えていく必要がある。

今あるものを、どういう風に活かすかでお金を余分なことに使わなくて済む事になる。このため1階部分に設置した方が経費がかからなくてよい。・・・鈴木
- ・地域資料は中学生の学習で使えるため大切にしていける必要がある、民俗資料を4階に置くのは良くないと考える。
- ・施設の設置で過去に予算で何億円という構想があった。周辺住民の歴史民俗資料室の利用率が低いため利用頻度を高めるためにどうするのか考える必要がある。現在、歴史民俗資料調査研究会の会員は20人余りいるのでこの機会に意見を反映できるようにし、施設を連続的に毎日利用できるようにするとよい。
- ・今回提出した資料は事務局（企画政策課）からの案で、これから住民説明会があるので決定事項ではない。・・・事務局
- ・1階部分に歴史民俗資料室を使うということであれば他の施設を上の方に上げていけばよく4階の発想はない。

- ・集約型の施設にしたときに障害者が4階に来るかどうかなどということを考えていかなければならない。・・・事務局
- ・整備されている1階の歴史民俗資料室を壊すのはもったいない。集約型の施設として唐竹小学校の2棟を利用するのに総合事務室を置いてもらえるのか。
- ・今後の話の中で障害者利用のためにプロパーが入ってくることを考えていく必要がある。・・・事務局
- ・1階の歴史民俗資料室を壊すのかどうかについて4階に決まった段階で考えていく必要がある。各委員の意見を聞きながら決めていくとよい。
- ・校舎の耐用年数はあと40年(計80年)であり、耐用年数が短ければ図書館に集約した方がよい。行政の中で方向づけをしていく必要があり、先を見据えて基本方針がほしい。
- ・800億円の資産を3割減らして後々、税負担を上げないようにしていかなければならない。図書館も移動する可能性がある。歴史民俗資料室、埋蔵文化財出土物収蔵庫、編纂室が点々としているが集約し続けていくことでよいと考える。一定の条件でやらざるを得ない部分があるのでご理解いただきたい。・・・事務局

次回文化財保護委員会 平成30年12月14日(金)
午前9時30分より教育委員会室